

授業科目名	海外実習 A	担当教員	塩川 太郎 姚 瑤 高橋 加織
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年 第 4 クォーター		
講義内容	<p>海外実習 A では海外の観光施設での実習を行う。</p> <p>①台湾実習：台湾の提携大学と協力し海外実習を行う。実習に必要な中国語の講習や台湾の文化体験などを行い、台湾の習慣や言語を学んで実習に備える。台湾の生活に慣れた後に台湾中部のホテルにて実習を行い、海外における観光施設での実務経験を積む。また休日等を利用して台湾の観光地を見学し、観光文化への理解を深める。</p> <p>②マレーシア実習：マレーシアの提携大学と協力し海外実習を行う。使用言語は英語であり、マレーシアの文化体験などを通して実習に備える。また休日等を利用してマレーシアの観光地を見学し、観光文化への理解を深める。</p>		
到達目標	<p>海外において観光業の実務経験を積むことで、グローバルな視野を持つ国際的社会人となることを目指す。実習では英語や中国語を直に学び、その文化を体験するとともに現地ホテルで実習を行う。海外の観光施設での実習経験をもとに訪日観光客への対応ができるようになることを目的とする。</p>		
授業計画	<p>提携大学の協力で、海外実習を行う。</p> <p>宿泊先：提携大学の学生寮及び現地ホテル</p> <p>期間：第 4 Q（2～3 月）の約 2～3 週間</p> <ol style="list-style-type: none"> （出発前）「事前講習」実習先の情報や安全対策等の講習、目標設定、初級中国語講座（台湾）等。 （第一週目）「語学学習、文化体験」提携大学で外国語や文化を学ぶ （第二週目）「観光宿泊施設実習」台湾・マレーシアのホテルで実習 （第三週目）「観光宿泊施設実習」台湾・マレーシアのホテルで実習（実習中は日報を作成し、担当教員に報告を行う。） （帰国後）「完了報告」完了報告書の提出、報告会 <p>※実習期間によっては報告会を実習中に現地で行う。（現地の事情により予定が変更になることがある）</p>		
事前・事後学習	<p>事前：事前学習、中国語学習（台湾）</p> <p>事後：完了報告書を作成（毎日、学んだこと、気付いたことなどを記録する）</p>		
テキスト	なし		

参考文献	なし
成績評価の基準	事前学習への参加、実習態度（日報等含む）、完了報告等により評価を行う。
履修上の注意 履修要件	<p>海外実習は、異なる文化圏での活動となるため、相手の文化や習慣を尊重し、危険な行為を行わないように注意して参加すること。</p> <p>病気や怪我等がある学生は履修前に担当教員に相談し、参加可能であるか確認すること。</p> <p>台湾実習では「中国語」の履修が望ましいが、履修していない場合でも向上心とコミュニケーション能力があれば参加可能である。</p> <p>マレーシア実習では英語を主に使用するため、英語能力を重視する。</p>
実践的教育	該当しない。
備考欄	提携先の都合や国際情勢により、実習地、内容等は変更になる場合がある。また参加希望者が多い場合は選考を行う。詳細は担当教員に問い合わせること。